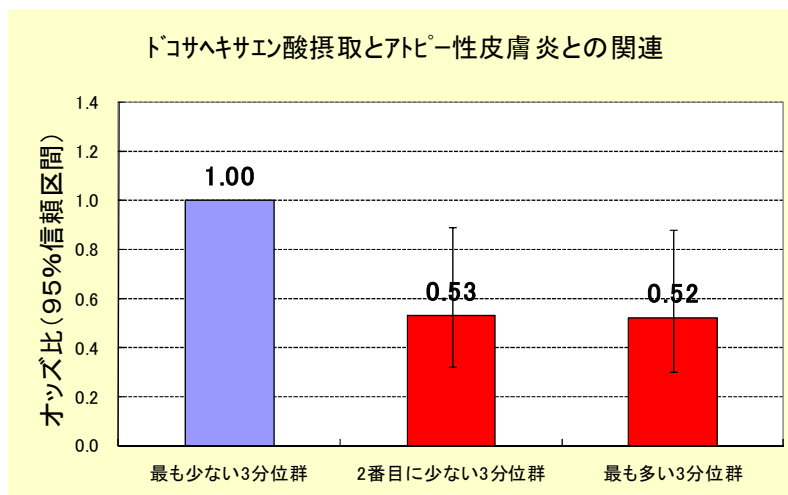


## 大阪母子保健研究ベースラインデータの結果 魚介類、脂肪酸の摂取とアトピー性皮膚炎有症率との関連

**背景：**魚介類や魚介類由来のn-3系不飽和脂肪酸摂取がアトピー性皮膚炎に予防的であるかどうかは未だ議論が続いています。

**方法：**大阪母子保健研究のベースライン調査に参加した1002名の妊婦さんを対象としました。18歳以降にアトピー性皮膚炎の投薬治療を受けた場合をアトピー性皮膚炎ありと定義しました。交絡因子として、年齢、ベースライン調査時妊娠週、子数、喫煙状況、喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎の家族歴、屋内のペット、家計の年収、教育歴、寝具のダニ抗原量、BMI、過去1ヶ月の食事変容、季節を補正しました。

**結果：**18歳以降のアトピー性皮膚炎有症率は10.2%でした。摂取量によって3等分すると、最も少なくドコサヘキサエン酸を摂取している群に比較して、2番目に少ない群及び最も多く摂取している群では、統計



学的に有意に18歳以降のアトピー性皮膚炎有症率が低くなりました。過去1年アトピー性皮膚炎を結果因子とした解析でもドコサヘキサエン酸摂取と有意な負の量-反応関係を認めました。魚介類、肉類、乳製品、卵、飽和脂肪酸、単価不飽和脂肪酸、n-6系不飽和脂肪酸、エイコサペンタエン酸、コレステロール摂取はアトピー性皮膚炎有症率と有意な関連を認めませんでした。

**結論：**ドコサヘキサエン酸摂取がアトピー性皮膚炎の低い有症率と関連するのかもしれませんが。

**出典：**Miyake Y, Sasaki S, Tanaka K, Ohya Y, Matsunaga I, Yoshida T, Hirota Y, Oda H. Relationship between dietary fat and fish intake and the prevalence of atopic eczema in pregnant Japanese females: baseline data from the Osaka Maternal and Child Health Study. Asia Pac J Clin Nutr. 2008; 17: 612-619.